



北の大地とともに



CSRレポート2018

北海道コカ・コーラボトリング株式会社



北海道コカ・コーラボトリング株式会社は「北海道150年事業」パートナー企業として未来につなぐ取り組みを応援しています

「北の大地とともに」 次世代へ継承する北海道の魅力

TOP MESSAGE



代表取締役社長 **佐々木 康行**
Sasaki Yasuyuki

私たち北海道コカ・コーラボトリング株式会社ならびにグループ各社は、北海道に生まれ、北海道の皆さまに育てられてきたごさんご企業です。

豊かな大地に育まれた良質な水と原材料を使い、北海道の工場で高い品質管理のもと、清涼飲料水を製造しております。「北海道で唯一の総合飲料会社として、さわやかさと潤いを提供し、道民から愛され続ける企業」を目指し、事業活動を展開しています。

ごさんご企業である私たちの役割は、事業活動を通じて各地域において課題解決のお役に立てる活動を継続していくことであり、「北の大地とともに」を合言葉に、全社員一丸となって、北海道を応援する企業でありたいと考えます。

1963年に誕生した当社は、命名150年を迎えた北海道の約3分の1をともに歩んでまいりました。この素晴らしい北海道の魅力を次世代へと継承していくため、持続可能な社会の実現を目指して、より一層、地域社会との連携を深め活動してまいります。

CONTENTS

TOP MESSAGE	01
北海道150年と当社の歩み	03
北海道コカ・コーラグループの 経営理念に基づくCSR体系	05
2017年CSR活動ダイジェスト	07
特集 01 環境	
ウォーター・ニュートラリティー	09
環境教育の推進	11
北海道の環境保全	12
環境負荷低減の取り組み	13
環境会計について	15
特集 02 安全安心	
地域とともに進める住みよいまちづくり	17
防犯への取り組み	18
地域の防災パートナー	19
世界共通の高品質管理	21
特集 03 地域連携	
地域の企業・団体との連携	23
社会貢献活動の支援	25
地域活性化のお手伝い	26
よりよい職場づくり	27
企業プロフィール	29
第三者意見	30

CSR活動方針

- ・ステークホルダーからの企業評価向上を目指した取り組みを推進します。
- ・環境保全活動などのCSR活動を自発的に行う企業風土を育てます。
- ・事業活動と連動させた継続可能な社会貢献活動を推進します。

CSRレポート編集方針

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社CSRレポート2018」は、当社グループのCSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任) に対する取り組みをわかりやすく紹介し、ステークホルダー (利害関係者) の皆さまからご意見をいただき、北海道の明るい未来を形づくる持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

[対象期間]

2017年1月1日～2017年12月31日。
実績データは2017年、活動内容の一部は2018年も含みます。

[対象組織]

原則的にグループ連結会社を対象としています。
(P.30「グループ会社の概要」参照)

2018「1963



北海道の雄大な風景が描かれている「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザイン

北海道e-水プロジェクト

「北海道e-水プロジェクト」ロゴマーク



環境への意識を高めてもらう円山動物園内 休憩スペース「ネイチャーカフェ・アース」



アジア初の冬季オリンピック、世界35ヶ国の選手が参加したこのビッグイベントに、ココロラシステムとして協賛

「い・ろ・は・す」は白旗山を水源とする札幌工場で採水された水を使用



北海道コカコーラグループの歴史



延床面積約2,400㎡、鉄筋コンクリート2階建ての近代的な建物は、その斬新なデザインと鮮やかな色彩で地域の話者と呼ばれた



先輩たちがつないでくれた北海道開発局との「道路を広く美しく」運動

- 1963 ● 北海道飲料株式会社として設立
- 「ココロラ」、「ファンタ」販売開始
- 商号を北海道コカコーラボトリング株式会社に改称
- 本社工場竣工
- 1968 ● 全道の社会福祉施設などへクリスマス時期の製品プレゼント開始
- 1970 ● 北海道開発局との「道路を広く美しく」運動実施
- 1972 ● 第11回冬季オリンピック札幌大会に協賛・支援
- 1975 ● 「ジョージア」販売開始
- 1983 ● 「アクエリアス」販売開始
- 1994 ● 「爽健美茶」販売開始

- 2006 ● 北海道と「防災に関する協力協定」締結
- 市町村と防災協定の取り組み開始
- 子どもの安全を見守る運動開始
- 北海道開発局との取り組み開始
- 2007 ● 北海道警察と協働の取り組み開始
- 2008 ● 旭川市と「まちづくりパートナー協定」締結
- 札幌市円山動物園と協働の取り組み開始
- 旭川市旭山動物園と協働の取り組み開始
- 2009 ● 札幌市と「まちづくりパートナー協定」締結
- 函館市と「まちづくりパートナー協定」締結
- 「い・ろ・は・す」の販売を開始
- 2010 ● 「北海道e-水プロジェクト」の活動開始
- 釧路市と「まちづくりパートナー協定」締結
- キャラクター「Qoo」が札幌市の食育特別大使に任命される
- 帯広市と「まちづくりパートナー協定」締結
- キッズタウン開始(函館市)
- 2011 ● 札幌市と「環境事業に関する協定」締結
- 白旗山での森づくり活動開始
- 2013 ● 当社50周年
- 2014 ● 北海道と包括連携協定締結
- 北海道開発局との取り組み「#9910」開始
- 広尾町と「サンタクロースの夢を育むまちづくりパートナー協定」締結
- 2016 ● 「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザイン「の寄付金累計額1億円突破
- 2017 ● 北海道e-水プロジェクトが「第19回日本水大賞」審査部会特別賞受賞
- 2018 ● 北海道150年を応援



松浦 武四郎(1818~1888) 幕末に蝦夷を旅した探検家。開拓使の官吏として「北海道」という地名の原案を提案して、北海道の名付け親とも呼ばれる。

背景写真：北海道国郡全図/松浦武四郎(北海道大学附属図書館所蔵)

北海道の歴史



北海道庁庁舎 1889(明治22)年頃(北海道大学附属図書館所蔵/「明治大正期の北海道(写真編)」からの転載)



札幌農学校演武場と北講堂 1889(明治22)年以後(北海道大学附属図書館所蔵)

- 1869 ● 蝦夷地を「北海道」と改称
- 開拓使設置
- 1875 ● 最初の屯田兵が琴似現・札幌市西区琴似)に入植
- 1880 ● 手宮小樽・札幌間に鉄道開通(北海道初の鉄道)
- 1886 ● 北海道庁設置
- 1922 ● 札幌、函館、小樽、室蘭、旭川、釧路に市制施行
- 1935 ● 第1回函館港まつり開催
- 1948 ● 第1回くしろ港まつり開催
- 1949 ● 支笏洞爺が国立公園に指定
- 1950 ● 第1回さっぽろ雪まつり開催
- 北海道開発庁設置
- 1951 ● 札幌市円山動物園開園
- 1956 ● NHK札幌中央放送局がテレビ放送開始
- 1958 ● 北海道大博覧会開催(札幌・小樽)
- 1960 ● 第1回旭川冬まつり開催
- 1964 ● 知床が国立公園に指定
- 第1回おびひろ氷まつり開催
- 1967 ● 旭川市旭山動物園開園
- 1968 ● 北海道道百年
- 1972 ● 第11回冬季オリンピック札幌大会開催
- 1988 ● 青函トンネル開業(青函連絡船廃止)



開拓使札幌本庁仮庁舎と官員たち 1871(明治4)年(北海道大学附属図書館所蔵)



札幌屯田兵招魂碑前を通る弁慶号 1880(明治13)年頃(北海道大学附属図書館所蔵)



青函トンネル開業 1988(昭和63)年(写真提供:JR北海道)

- 1992 ● 第1回YOSAKOIソーラン祭り開催
- 1996 ● 北海道コンサドレ札幌(※)創設(株式会社北海道フットボールクラブ設立)
- 2001 ● 札幌ドーム開業
- 2002 ● 2002 FIFAワールドカップ日韓大会(札幌ドームも会場のひとつに)
- 2003 ● 日本ハムファイターズが北海道に移転、北海道日本ハムファイターズ設立
- 2005 ● 知床が世界自然遺産に指定
- 2008 ● 北海道洞爺湖サミット開催
- 2011 ● レンガ北海道(※)創設
- 2016 ● 北海道新幹線開業(新青森・新函館北斗間)
- 2018 ● 「北海道」命名から150年



その先の、道へ。北海道 Hokkaido, Expanding Horizons. 北海道150年ロゴマーク

2018「1869



北海道e-水プロジェクトへの支援
(累計)
約**1.1**億円、延べ**83**団体



白旗山での森づくり
(植樹累計)
約**3,000**本、
(協定面積)
1,063ha



環境にやさしいピークシフト自販機
約**8,500**台

環境教育参加人数
(累計)
約**7,300**人

キッズタウン参加人数
(累計)
約**15,000**人



寄付型自動販売機
29種、約**620**台



社会福祉施設への製品贈呈
(累計)
約**320**万本、**50**年継続

環境

製品づくりに欠かせない、きれいな水を守るため、北海道の豊かな自然を、次の世代へつなげます。

- ウォーター・ニュートラリティー
(製造過程における水使用量削減、製造過程で使用する水の循環、地域の水資源保護)
- 北海道の環境保全
(北海道e-水プロジェクト、環境支援自動販売機)
- 環境教育の推進
(出張環境教育、環境イベントへの参加)
- 環境負荷低減
(基本的な考え方、循環型社会の実現、地球温暖化防止)
- 環境会計 (環境保全コスト、環境効果)

北の大地とともに

地域連携

地域とのきずなを大切に、連携の輪をつなぎます。

- 地域の企業・団体との連携
(キッズタウン、雪かきボランティア、清掃活動、動物園との協働)
- 社会貢献活動の支援
(各種寄付型自動販売機)
- 地域活性化のお手伝い
(お祭り・スポーツの支援、製品贈呈)

安全安心

地域や生活者と手をつなぎ、安全安心を推進します。

- 地域とともに進める住みよいまちづくり
(北海道との包括連携協定、子どもの安全を見守る運動、まちづくりパートナー協定)
- 地域の防災パートナー
(自治体との協働による防災、北海道開発局との取り組み)
- 防犯への取り組み
(北海道警察との協働、犯罪被害者支援)
- 高品質管理
(「KORE」によるオペレーション管理、国際規格の取得、お客さま対応、工場見学)



防災の取り組み
1道**179**市町村



防犯の取り組み
道内全**66**警察署



災害時の製品提供と自動販売機のフリーバンド(※)台数
(直近3年間)

12,288本、
96台

※フリーバンド/災害時に自動販売機内の飲料が無償で提供される機能のこと



電光掲示板付き自動販売機
約**1,380**台

- 防災
約**850**台
- 防犯
約**400**台
- 道ねっと
約**130**台



工場見学来場者数
(累計)
約**77**万人

北海道コカ・コーラグループは「北の大地とともに」をスローガンに「環境」「安全安心」「地域連携」の領域に沿って、責任あるとさんご企業として北海道の持続可能な社会の実現を目指した活動を幅広く実施しています。

●CSR領域
「環境」「安全安心」「地域連携」

●CSRスローガン
北の大地とともに

●経営理念
私たちは、知的に活性化された豊かで創発的な社会に貢献します。

北海道コカ・コーラグループの
経営理念に基づくCSR体系

2017年 CSR活動ダイジェスト

北海道コカ・コーラグループは、北海道で生まれ育った企業としての使命と責任を自覚しながら、事業活動を通じて北海道とのさまざまな関わりを深めています。合言葉は、「北の大地とともに」。「環境」、「安全安心」、「地域連携」という領域を軸に、独自のCSR活動に取り組んでいます。



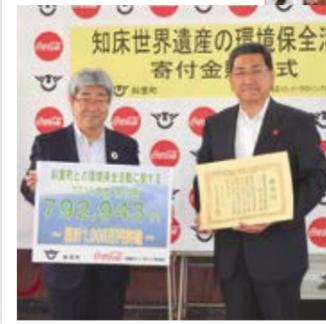
- 「白旗山都市環境林における森づくり」の取り組みなどが、「第8回さっぽろ環境賞」企業部門で「札幌市長賞」を受賞
- 北海道コカ・コーラグループ全社大会でCSR活動に取り組んだ社員を表彰
- さっぽろ雪まつりの大雪像を制作している皆さまに飲料を提供



- 雪かきボランティアに参加（札幌市清田区、同豊平区、倶知安町）
- さっぽろ雪まつり、旭川冬まつり、おびひろ氷まつりなど冬のお祭りを応援
- 北海道対がん協会へ「ピンクリボン活動支援自動販売機」の寄付金を贈呈
- 釧路市へ「釧路スケート応援自動販売機」の寄付金を贈呈



- 知床の環境保全活動に関する寄付金を贈呈（斜里町、羅臼町）
- 「コカ・コーラ札幌国際大学」がYOSAKOIソーラン祭りに参加



- 「北の大地とともに」運用開始（当別町、札幌開発建設部）
- 苫小牧市にて「キッズタウン」を開催
- 「小樽ファンが支えるふるさとまちづくり資金基金」へ寄付金を贈呈



- 「コカ・コーラ『森に学ぼう』プロジェクト〜わくわく体験ランド北海道in白旗山〜」を開催
- 函館市にて「キッズタウン」を開催
- 旭川市旭山動物園にて循環型農園「つながる輪『いのち』」で収穫祭
- コカ・コーラスペシャルマッチ「北海道日本ハムファイターズVS.オリックス・バファローズ」を開催



- 帯広市、旭川市にて「キッズタウン」を開催
- 北海道対がん協会と協働で「コカ・コーラ工場見学×無料乳がん検診バスツアー」を開催
- 「第8回北海道e-水フォーラム」を開催
- 帯広警察署、釧路警察署との協働で自動販売機に児童虐待防止ポスターを掲示



- YOSAKOIソーラン祭り組織委員会へ「コカ・コーラ」「コカ・コーラゼロ」YOSAKOIソーラン祭り応援デザイン缶の寄付金を贈呈
- 「北海道e-水プロジェクト」が第19回日本水大賞審査部会特別賞受賞
- 釧路市にて「キッズタウン」を開催



- 「国道5号国富チェーン着脱場」にて「おしらせ道ねっと」運用開始（共和町、小樽開発建設部）
- 「北海道e-水プロジェクト2017」キックオフミーティングを開催
- 旭川市旭山動物園を通じて子どもたちの未来を応援する「あさひやま“もつと夢”基金」に寄付金を贈呈
- 北海道盲導犬協会と協働で「盲導犬応援自動販売機」運用開始



- 北海道コカ・コーラpresents「レバンガ北海道VS.千葉ジェッツ」を開催
- 札幌市円山動物園へ「ミニツメイドQoo どうぶつデザイン」の寄付金を贈呈
- 旭川市旭山動物園にて循環型農園「つながる輪『いのち』」農園開き



- さっぽろ雪まつり実行委員会へ「コカ・コーラ」「コカ・コーラゼロ」さっぽろ雪まつり応援デザイン缶の寄付金を贈呈



- 全道各地の社会福祉施設へクリスマスプレゼントとして製品を贈呈
- 札幌市電「コカ・コーラクリスマス電車」を運行
- 道内各地のサントランを応援
- 北海道警察本部、札幌市立大学と協働で自動販売機に特殊詐欺被害防止ポスターを掲示
- 「道の駅ノンキールランドひがしもこと」にて「おしらせ道ねっと」運用開始（大空町、網走開発建設部）
- 「コカ・コーラ環境フォーラム」を開催



- さっぽろ雪まつり実行委員会へ「コカ・コーラ」「コカ・コーラゼロ」さっぽろ雪まつり応援デザイン缶の寄付金を贈呈



01 環境

大地と生きものたち、そしてもちろん人間も、水なしでは生きていくことができません。豊かな水は、北海道コカ・コーラボトリングの製品の源でもあります。北海道の水資源を守り次世代へとつないでいくことは、水資源を使う私たちの責任です。

北海道の価値ある自然を次の世代へ。



コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト～わくわく体験ランド北海道in白旗山～

ウォーター・ニュートラリティー

当社の取り組むウォーター・ニュートラリティー

当社の製品は、北海道の豊かな大地に育まれた良質な地下水を使っています。「ウォーター・ニュートラリティー (Water Neutrality)」とは、こうした製品づくりの過程で使った量と同じ量の水を、自然に還元するという考えです。

コカ・コーラシステムでは「2020年までに水資源の持続可能性におけるグローバルリーダーになる」という世界共通の目標を掲げ、製造過程における水使用量削減「リデュース (Reduce)」、製造過程で使用する水の循環「リサイクル (Recycle)」、地域の水資源保護「リプレニッシュ (Replenish)」の3つの要素でウォーター・ニュートラリティーの達成を目指しています。

具体的には、札幌工場の製造工程での節水や自然にやさしい排水処理のほか、札幌工場で使用している地下水の水源地が札幌市清田区の白旗山であることから、2011年



当社が水資源保護する白旗山の森



白旗山における植樹活動

に札幌市と締結した「環境事業に関する協定」に基づいて、白旗山の森づくりを推進するなど多角的な取り組みを進めています。

エレクトロン・ビーム殺菌

Reduce

札幌工場では2012年より、PETボトル製品の製造ラインで、エレクトロン・ビーム(電子線)によるPETボトルの殺菌を行っています。従来の洗浄に比べて洗浄水の使用量を大幅に減らすことに成功しました。



エレクトロン・ビーム発生装置

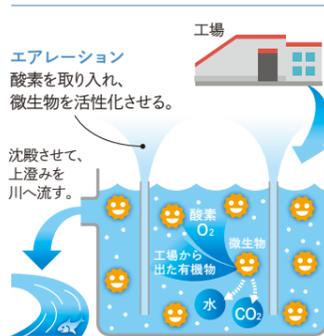
ラグーン処理方式

Recycle

札幌工場の排水処理には、微生物の自己浄化サイクルを活用して余剰汚泥の発生量を抑える「ラグーン処理方式(※)」を採用。国の排水基準を上回る自社基準を設けて、高度な処理を実現させています。

※ラグーン処理方式

微生物が有機物を食べ、水と二酸化炭素に分解します。



コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト

Replenish

コカ・コーラシステムでは、2006年から次世代を担う子どもたちが植樹や自然体験を通じて「森」と「水」の大切さについて学ぶことを目的に、「コカ・コーラ」森に学ぼうプロジェクトを行っています。

当社では2011年から、札幌工場で使う地下水の水源地である白旗山を舞台に、札幌市森林組合や市民団体と協働で、「コカ・コーラ」森に学ぼうプロジェクトと題し、植樹や湧水の観察、木工クラフト体験などを毎年行っています。2017年には当社社員と地元の子どもたち約30人が参加して、水源の森へミズナラ約100本を植樹しました。



コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト～わくわく体験ランド北海道in白旗山～

「山のがっこう」

Replenish

2013年、北海道大学大学院環境科学院との連携によって、「山のがっこう」を開校しました。これは環境保全と地域社会の発展に寄与することを目的に、白旗山をはじめとする北海道の自然を教育と研究を通して次世代へとつないでいくことを目指した取り組みです。

対象は、小学生から高校生。北海道大学の大学院生が中心になって、地域の関係者の皆さまと連携しながら、白旗山でのフィールドワークや、水の科学を学ぶ場です。伝える側の大学院生と受け取る子どもたち双方が刺激を受け合っており、価値ある学びを実践しています。

2017年には小学生を対象に、森と地下水の関係や植樹の意味を伝えたいほか、高校生には水循環をテーマに、電気伝導度や安定同位体比を用いた分析などを行いました。



「山のがっこう」授業風景

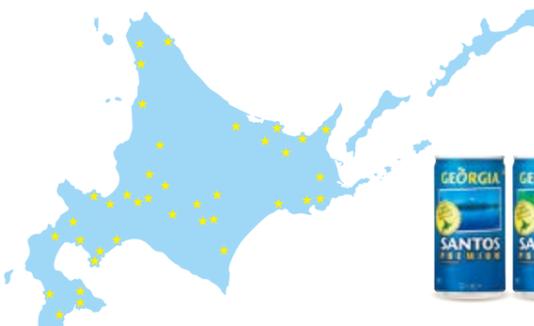
COLUMN

北海道の大自然に育まれた豊かな水と大地の恵みをお届けします

札幌工場の製品はすべて、白旗山を水源とする地下水で作られています。それは、白旗山に降り注いだ雨や雪が、長い歳月を経て不純物などが取り除かれた良質な水。これをPETボトルに詰めたのが、ナチュラルミネラルウォーター「い・ろ・は・す」です。また、当社ではコーヒーなどの製品にも北海道産の砂糖や乳・生クリームを使うなど、地産地消を推進しています。



「い・ろ・は・す」555ml、北海道限定の「い・ろ・は・す ハスカップ」555mlと「ジョージア ミルクコーヒー」500ml



「北海道e-水プロジェクト」
歴代支援団体所在地

2017年までの8年間で延べ83の団体を支援することができ、活動の輪は全道一円に広がっています。
※★印は市町村単位



「ジョージア サントスプレミアム」
北海道限定デザイン

1993年発売のロングセラー商品。乳や砂糖は北海道産を使用し、パッケージには大沼、釧路湿原、大雪山、十勝平野と北海道の雄大な風景を採用しています。

北海道の環境を守る

あなたの1本
北海道e-水プロジェクト

北海道の重要な資源である豊かな水と、それを生み出すダイナミックで多様な自然。この環境を道民全体で保全して未来へと大切に引き継いでいくことを目的に2010年に立ち上がったのが、「北海道e-水プロジェクト」です。北海道、公益財団法人北海道環境財団と当社の三者協働で行うこのプロジェクトは、当社が販売する「ジョージア



2017年度 北海道e-水フォーラム



コカ・コーラ環境フォーラム



北海道e-水プロジェクト活動団体 KODOMOラムサールin鶴居村(川の生きものさがし)

「第19回日本水大賞」
審査部会特別賞を受賞

2017年7月、「北海道e-水プロジェクト」は日本水大賞委員会と国土交通省が主催する「第19回日本水大賞」の審査部会特別賞を受賞しました。この賞は、安全でおいしい水にふれる21世紀の日本を目指して、水循環の健全化に向けたさまざまな活動を顕彰・支援するために1998年に創設されたものです。主催者からは、多くの関係者との協働によって実現した当社の水環境保全を目的としたフォーラムの開催や、水生外来種駆除などの環境保全活動の支援などに対して、「企業が、社会的役割を認識して消費者と水循環健全化活動を結び付けていること、企業と行政と団体と協働することで実効性が高いことは特筆に値する」という評価をいただきました。

サントスプレミアム「北海道限定デザイン」の売上の一部が同財団に寄付され、それを財源に、北海道の水辺の環境保全に取り組む団体を応援する仕組みです。

4月には助成団体を集めた「キックオフミーティング」を、11月には活動内容を広く発信する場として「北海道e-水フォーラム」を開催。2017年度の寄付額は約827万円、プロジェクトの前身となる、北海道との「環境保護活動の推進に関する協定」に基づく寄付を含めた累計寄付額は、約1億1,000万円となりました。

環境教育の推進

雨煙別小学校
コカ・コーラ環境ハウス

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団は、栗山町と町民の皆さんと連携しながら、廃校となっていた雨煙別小学校を「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」に再生しました。体験型宿泊施設として2009年にオープンして以来、NPO法人雨煙別学校の運営によって宿泊学習やスポーツ少年団の合宿の受け入れのほか、栗山町内外の多くの人に利用されています。

毎年夏休みには、環境ボランティア活動に取り組み子どもたちが全国から集う「コカ・コーラ環境フォーラム」が開催され、活動の支援のために設けられた「コカ・コーラ環境教育賞」の最終選考会が行われるほか、栗山町ハサンベツ里山での体験学習などさまざまな環境イベントに活用されています。



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

出張環境教育を実施

未来の環境保全を担う子どもたちに水資源の大切さや環境保全の意味を楽しく学んでもらうために、出張環境教育「水の授業」などを展開しています。2017年は、道内各地の環境イベントをはじめ札幌市内の学校などでも実施し、1年で約1,000人が参加しました。



出張環境教育「水の授業」

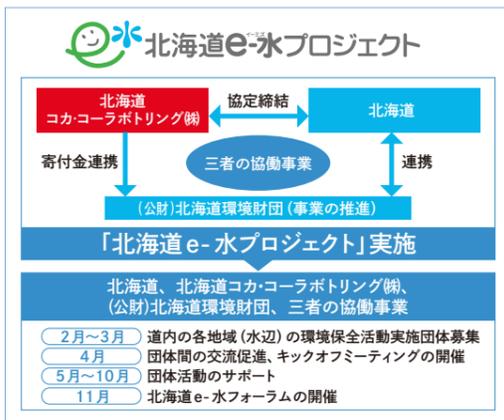
環境イベントへの参加

当社の環境への取り組みを知っていただくために、環境イベントにも積極的に参加しています。札幌市青少年科学館での「環境科学展」、



「はこだてエコフェスタ」への出展

「はこだてエコフェスタ」などでパネル展示を行うほか、クイズなど参加型の企画にも力を入れています。



環境支援自動販売機

2005年、流水着岸の北半球南端であり、海と陸の原始的な自然が濃密に交わり、知床が、世界自然遺産に登録されました。日本が誇るこの稀少な自然環境の保全に貢献することを目的に、当社は斜里と羅臼の両町で「知床応援自動販売機」の設置を展開しています(斜里町では2006年から、羅臼町では2007年から)。2017年は合わせて約107万円を寄付して、これまでの累計は、両町で約1,330万円となりました。



知床応援自動販売機

VOICE



公益財団法人北海道環境財団 協働推進課長 内山 到さん

たくさんの方の協力を
皆さんと盛り上げる
「北海道e-水プロジェクト」

北海道コカ・コーラボトリング(株)の社員の皆さんは、北海道e-水プロジェクトの活動団体の現場に積極的に参加されています。4月に本社で行われるキックオフミーティングにも、皆さんが多数参加して活発に意見交換をしています。寄付をして終わりではなく、本社や地域の社員の皆さんが参加して活動団体と交流することによって、自分たちが販売した商品の売上の一部がどのように使われているかを知るとともに、北海道の環境課題を考え、CSR活動にも役立てることが出来ます。北海道e-水プロジェクトを通じて、豊かな環境を未来につなげながら地域との絆を強く、パートナーシップを醸成していくという、ネットワークと活動の良い循環が形づくられているのを感じます。

環境負荷低減の取り組み

北海道の豊かな自然環境を守りながら、次世代に引き継いでいくために。私たちは事業活動のあらゆるプロセスで、環境負荷低減の取り組みを進めています。

環境に対する基本的な考え方

環境理念

北海道コカ・コーラグループは、責任ある企業市民として、地球環境の保全に配慮した事業活動を行い、地域の豊かな環境の維持と社会の継続的な発展に貢献します。

環境行動指針

- 1、省エネルギー、省資源に努め、環境負荷を低減します。
- 2、事業活動に伴う廃棄物の削減と再資源化を促進するとともに、汚染の予防に努めます。
- 3、環境保全に対する全従業員の意識向上を図り、グループをあげて環境保全活動に取り組みます。
- 4、地域社会における環境保全活動への協力・支援を推進します。
- 5、環境に配慮した物品の購入を促進します。
- 6、環境関連法規制、KORE（コカ・コーラシステムが定める基準）及びその他の要求事項を遵守します。

ISO14001 認証取得

2010年2月、本社敷地内に所在する当社グループの各事業所で、環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」の認証を取得し、2017年11月に2015年版へ移行しました。その後も自ら決定した環境行動指針のもとで、事業活動・製品及びサービスが環境に与える影響を引き続き把握・評価・是正しながら継続的に改善を重ねることで、省資源・省エネルギーに代表される環境負荷の低減に努めています。同時に、廃棄物の削減と再資源化の促進、汚染の予防、そして環境保全に対する全従業員の意識のさらなる向上にも、積極的に取り組んでいます。



ISO14001登録証

地球温暖化の防止に向けて

夏季・冬季節電

当社では7月1日から9月30日の間、9時～20時までの時間帯は約5万台の自動販売機を対象に6つのグループに分けて、冷却運転を輪番で停止させています。これにより最大使用時と比べて約15%の電力削減を実現させました。また冬季も冷却運転の輪番停止を通じて、自主的な電力削減に取り組んでいます。



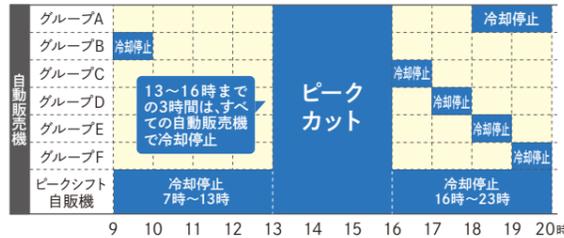
ピークシフト自販機

電力使用がピークとなる時間帯で最大16時間冷却運転を停止しても冷たい製品が販売できる、省エネ性能にきわめて優れた自動販売機。それが2013年に北海道初登場となった「ピークシフト自販機」です。ポイントは保冷性能の高い真空断熱材の採用により、冷却のための電力使用を日中から電力に余裕のある夜間にシフトすることで日中の電力消費を約95%（※）削減します。また冬に一部製品を加熱する際も、ヒーターの消費電力が20%（※）程度少なくなり、冷却に使う電力と合わせても68%（※）の電力削減が可能になります。この自販機は2013年度の「省エネ大賞」で最高賞の経済産業大臣賞を、「第10回エコプロダクツ大賞」で推進協議会特別賞（節電優秀賞）を受賞しました。2017年12月末現在で当社はこの自販機を約8,500台展開しており、今後も推進していきます。

※2012年度製造の同型機平均値比（日本コカ・コーラ社調べ）

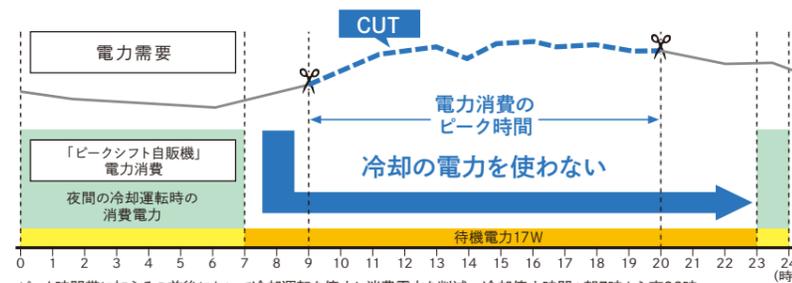
輪番節電チャート

9～20時の「ピーク時間帯」に、冷却のためのコンプレッサー機能を輪番で停止することにより、15%の節電を目指します。



「ピークシフト自販機」

時間帯別電力需要の推移と「ピークシフト自販機」の電力消費イメージ図



ピーク時間帯に加えその前後において冷却運転を停止し消費電力を削減。冷却停止時間：朝7時から夜23時
出典：東京電力HPより2012年6月1日の電力使用実績

循環型社会の実現のために

ゼロ・エミッション

札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単純焼却処理をすべて廃止して、廃棄物全量をリサイクルするゼロ・エミッションに取り組んでいます。コーヒー、茶製品の生産量増加に伴い廃棄物排出量は増加傾向にありますが、2001年からのゼロ・エミッションを継続達成しています。

ゼロ・エミッションの内容

リサイクル前	リサイクル後	工場廃棄物排出量 (単位:t)		
		2015年	2016年	2017年
コーヒーかす、茶かす	肥料	4,282	5,570	5,910
紙類	再生紙、ダンボール	174	179	162
プラスチック類	再生プラスチック、固形燃料	164	149	161
金属類	再生金属	76	85	84
汚泥	セメント原料、肥料	50	43	42
ガラス類	ガラスびん	0	0	0
一般廃棄物	発電、暖房燃料	7	12	14
合計		4,753	6,038	6,373

容器リサイクル

空容器の回収とリサイクルに力を入れています。回収した容器は自社または専門業者によりPET・アルミ・スチールなど材質別に分別し、再資源化されます。

容器別	リサイクル率 (2016年度)
アルミ缶	92.4% (アルミ缶リサイクル協会)
スチール缶	93.9% (スチール缶リサイクル協会)
PETボトル	83.9% (PETボトルリサイクル推進協議会)
ガラスびん	75.4% (カレット使用率) (ガラスびん3R促進協議会)

VISION

容器の2030年ビジョン

廃棄物ゼロ社会の実現を目指すため、コカ・コーラシステムでは2030年を目標年とする新たな容器ビジョンに取り組んでいます。

- PETボトルの原材料として、可能な限り、枯渇性資源である石油由来の原材料を使用しません。原材料としてリサイクルPETあるいは植物由来PETの採用を進め、PETボトル一本あたりの含有率として、平均して50%以上を目指します。
- 政府や自治体、飲料業界、地域社会と協働し、国内のPETボトル缶の回収・リサイクル率の更なる向上に貢献するべく、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築とその維持に取り組めます。国内で販売した自社製品と同量量の容器の回収・リサイクルを目指します。

- 清掃活動を通じて、地域の美化に取り組めます。また、容器・ゴミ、海洋・ゴミに関する啓発活動に積極的に参画していきます。

環境保全効果

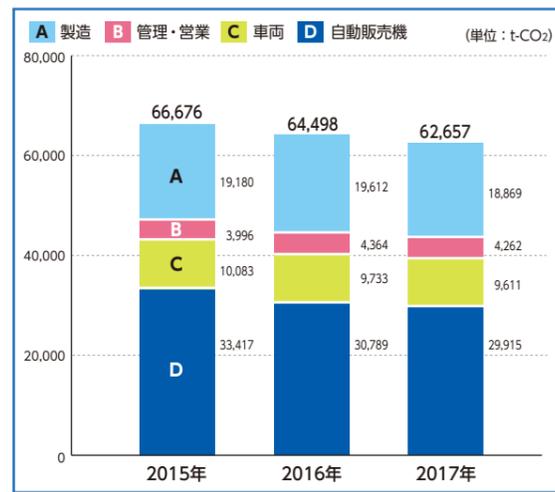
項目	単位	2015年	2016年	2017年	対前年増減率	
		実績値	実績値	実績値		
総エネルギー使用量(熱量換算)	GJ	1,419,839	1,367,717	1,328,422	-2.9%	
CO ₂ 排出量	tCO ₂	66,676	64,498	62,657	-2.9%	
NO _x 排出量	燃焼設備	t	7.2	7.7	7.3	-4.1%
	車両	t	62.9	61.1	60.5	-1.0%
水使用量	m ³	1,254,841	1,282,700	1,254,321	-2.2%	

環境保全対策に伴う経済効果

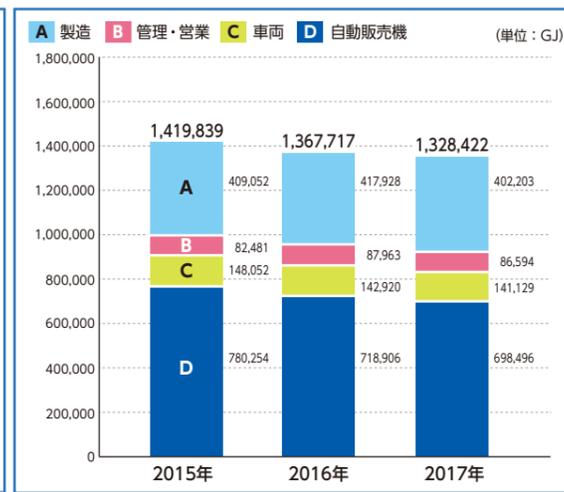
(単位:千円)

内容	2015年	2016年	2017年
リサイクルにより得られた有価物の売却額(自動販売機・缶、PET、プラスチック、古紙等)	43,512	25,715	30,389

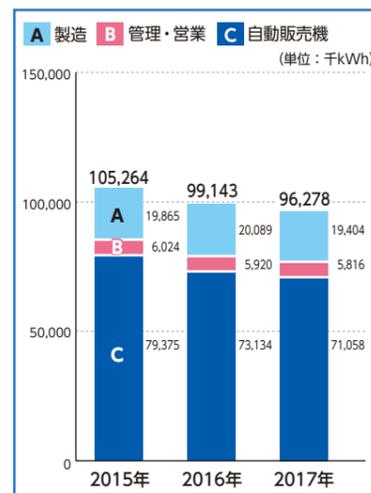
CO₂ 排出量の推移



エネルギー使用量(熱量換算)の推移



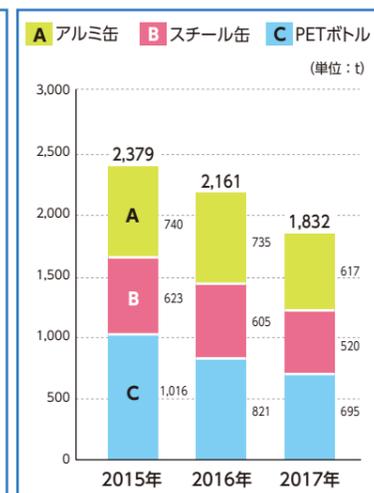
使用電力量の推移



水使用量の推移



空容器回収量の推移

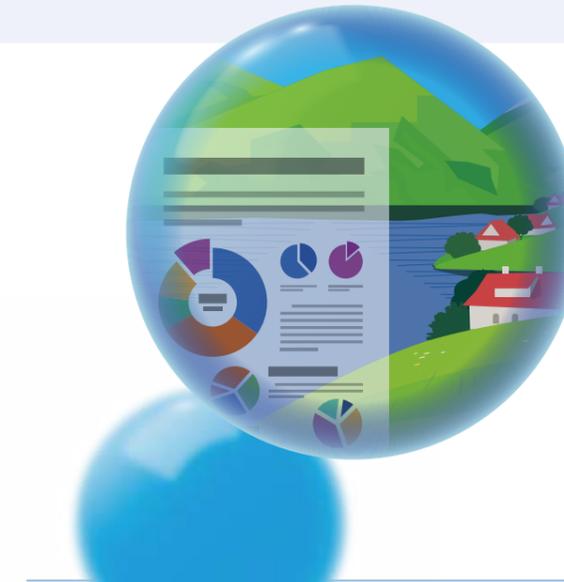


〈集計方法について〉
 ・CO₂は電力・燃料より、NO_x・SO_xは燃料より算出しています。(SO_xは排出量が微量であるため、環境保全効果の表には記載していません。)
 ・燃料由来のCO₂排出量は、「地球温暖化対策推進法施行令」に基づく換算係数より算出しています。
 ・電力由来のCO₂排出量は、電気事業連合会CO₂排出原単位より算出しています。
 ・NO_x排出量は、環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。

・SO_x排出量は、燃料の組成より理論値を用いて算出しています。
 ・管理・営業の項目には、物流倉庫の数値を含めています。
 ・車両の項目には、敷地内で使用するフォークリフト及び当社製品等を搬送している外部委託車両の燃料使用量を含めています。
 ・製造(井水)は製造量と連動しています。

環境効果

販売機器では自動販売機のノンフロン化やLED照明の採用などを行い環境負荷低減に取り組んでいます。また、「ピークシフト自販機」などの省エネ型自販機の投入により、CO₂排出量の削減に努めました。物流部門では、物流拠点の集約及び物流網の見直しなどにより物流の効率化を行っています。また、車両の環境負荷低減に向けアイドリングストップや効率的な走行などエコドライブを推進し、物流効率化と使用車両の両面でCO₂削減を進めています。資源の循環利用の鍵となる再資源化では、廃棄自動販売機や空容器のリサイクルを積極的に推進し、廃棄物を削減しています。今後、省エネ活動やリサイクルの推進、廃棄物の減量を行い、環境負荷低減に取り組んでいきます。



環境会計について

「環境会計」とは、企業が環境保全に投じたコストとその活動により得られた効果を把握するための会計手法です。より効率的かつ効果的な推進を目指しています。

環境保全活動の効果「環境会計」を見える化

環境保全コスト
 2017年度は、倉庫照明などを水銀灯や蛍光灯からLED照明に切り替え、冷暖房設備を重油から天然ガスに切り替えるなど環境負荷低減に向けた取り組みに投資を行いました。また、廃棄物処理委託業者の視察や事業所・グループ会社を対象に廃棄物管理業務点検を実施し、事業活動で排出される廃棄物の適正管理・処理に向けた取り組みを継続しています。

マテリアルバランス
 マテリアルバランス(物質収支)とは、事業活動において必要とされる資源・エネルギーの量(インプット)と、それに伴う廃棄・排出量(アウトプット)を表したものです。当社では生産活動における環境負荷を把握した上で、これらの削減に取り組んでいます。

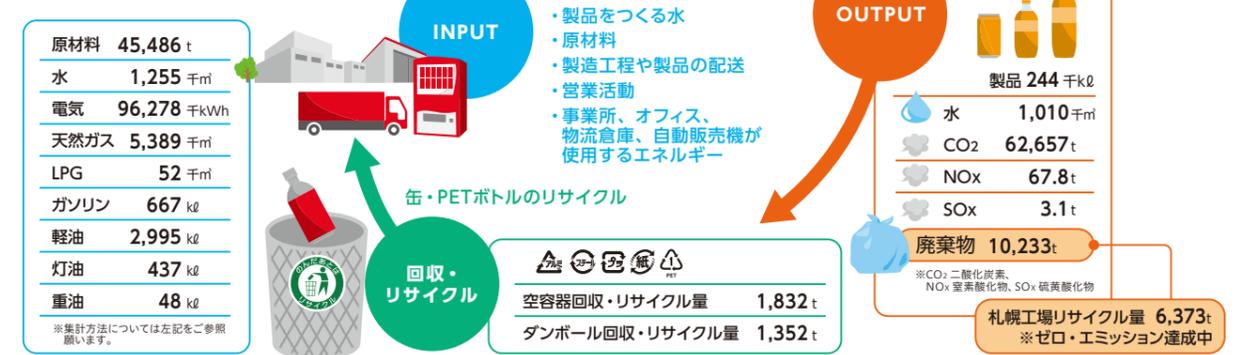
環境保全コスト

(単位:千円)

項目	主な取り組みの内容	2016年		2017年	
		投資額	費用額	投資額	費用額
1.事業エリア内コスト	計	151,013	123,590	92,254	131,373
(1) 公害防止コスト	工場排水処理 他	74,536	30,294	22,702	27,780
(2) 地球環境保全コスト	工場節水設備・省エネルギー設備 他	49,326	15,734	69,300	15,870
	自動販売機のフロン回収・破壊	245	14,795	0	10,905
	天然ガス車・ハイブリッド車のリース費用※	0	19,593	0	26,233
(3) 資源循環コスト	各事業所の廃棄物の処理・リサイクル	26,906	41,338	252	47,925
	自動販売機の処理・リサイクル	0	1,836	0	2,660
2.上・下流コスト	計	0	91,866	0	88,496
	空容器の回収・リサイクル	0	24,137	0	24,336
	空容器回収ボックス・空容器回収用ポリ袋	0	35,983	0	32,971
	再商品化委託費 他	0	31,746	0	31,189
3.管理活動コスト	計	0	32,030	0	31,497
	環境負荷の測定	0	21,805	0	21,372
	EMS構築・運用、環境コミュニケーション	0	10,225	0	10,125
4.社会活動コスト	計	0	14,047	0	13,463
	業界団体活動、環境支援活動 他	0	13,527	0	12,943
	本社構内緑化保守	0	520	0	520
合計		151,013	261,533	92,254	264,829

※2017年度から「天然ガス車・ハイブリッド車のリース費用」に変更しました。

マテリアルバランス



02 安全安心

企業活動とは、企業理念の実現を目指して、さまざまな人と地域に深く関わりつづける歩みにほかなりません。いつも近くにいる地元企業として、地域課題解決のお手伝いを、私たちにできることから一つひとつ実行していきます。

だんさんこ企業としてできること。



道警特殊詐欺被害防止セミナー

地域とともに進める住みよいまちづくり

北海道との包括連携協定に結ばれた、地域への思い

当社がかねてより、北海道と協働で安全・安心なまちづくりや環境保全などに取り組んできました。2014年には、さらなる活性化に向け、北海道と相互に連携・協力しながら協働事業に取り組むため、「安全・安心な地域づくり」「観光振興」「食や健康」「環境保全・環境教育」「固有文化・歴史の伝承」など、6項目で包括連携協定を締結しました。

以来、この協定に基づき、だんさんこ企業として地域との絆を深めながら取り組みの幅をさらに広げ、住みよい北海道を目指し、さまざまな活動を推進しています。



自動販売機の電光掲示板を使った道政情報の配信

まちづくりパートナー協定

当社は2009年、札幌市と「さつぽろまちづくりパートナー協定」を締結しました。協定に基づき、市内10区とそれぞれの特色を活かしたまちづくり活動を行っています。また2008年には旭川市、2009年には函館市、2010年には釧路市、帯広市とそれぞれまちづくりへの協力協定を結び、2014年には広尾町と「サンタクロースの夢を育むまちづくりパートナー協定」を結び、地域との協働の輪を広げています。



まちづくり活動への参加(豊平区)

VOICE



営業統括本部 第一本部
チェーンストア営業二部
釧路営業課長
吉村 貴敏

見守るまなざしが、地域の安心と仕事へのエネルギー

当社の釧路事業所では、2010年より社員が交代で小学校の通学路に立ち、声かけ、見守り活動を続けています。この取り組みが評価されて2017年には交通安全協会から感謝状をいただき、地域の防犯、交通事故防止にも貢献することができています。我々の活動から賛同企業が増えて、この見守る活動の輪が広がることを強く願いながら今日も活動を続けています。地域の町内会、さらには連合会のご協力もいただきこの活動を続けることができていますが、私たちは毎朝の子どもの笑顔で元気を貰って勇気づけられ、逆に1日の仕事の励みになっています。これから事業所一丸となつてこの活動を続けていきたいと考えています。

防犯への取り組み

北海道警察との協働

当社は2007年、北海道札幌方面中央警察署と協働し、電光掲示板付き自動販売機で防犯や事件情報を配信する「防犯ほっとインフォメーション」の運用を開始。以後全道すべての警察署と「電光掲示板付き自動販売機による協働事業に関する協定」を結び、連携を拡大させています。加えて、地域の子どもたちが描いた防犯ポスターを自動販売機に掲示する取り組みも進めています。地域の子どもたちが描いたポスターは訴求力も高く、防犯意識の向上に役立っています。

さらには悪質な飲酒運転が引き起こす交通事故に対処するために制定された「北海道飲酒運転の根絶に関する条例」の啓蒙を目的に、2016年からは全道各地の警察署と力を合わせて飲酒運転の根絶を訴



児童虐待防止ポスター掲示式(帯広市)



特殊詐欺被害防止ポスター

える活動を始めました。繁華街や駐車場など人目に触れやすい場所の自動販売機約3,000台に飲酒運転根絶ポスターを掲示するとともに、2017年には、北海道警察本部、札幌市立大学と協働で、オレオレ詐欺など特殊詐欺の被害防止のために、高齢者の方々が多く利用される施設の自動販売機約1,000台にポスターを掲示。また、帯広警察署・釧路警察署と当社が協働で児童虐待防止に向けた啓発に取り組み、十勝管内及び釧路管内で人目に触れやすい場所に設置している合計150台の自動販売機にポスターを掲示しました。これらの取り組みを通じ、安全・安心な地域づくりを進めていきます。

犯罪被害者支援活動

道内の犯罪被害者や被害者家族、遺族のために、道内各警察署に設置している自動販売機の売り上げの一部を、公益社団法人家庭生活総合カウンスリングセンターに寄付するとともに、毎年11月の犯罪被害者週間には街頭啓発活動にも参加し、安全・安心なまちづくりに向けた活動に取り組んでいます。



街頭啓発活動に参加

通学見守りボランティア

釧路事業所では、2010年から社員が交代で小学校の通学路に立ち、声かけ・見守り活動を続けています。2014年には地域の小学校から、そして2017年には交通安全協会から地域の防犯に大きく貢献したとして感謝状をいただきました。



通学見守りボランティア

災害時の製品提供・フリーベンド記録(2017年)

月日	自治体	理由	製品提供/フリーベンド台数	月日	自治体	理由	製品提供/フリーベンド台数
9/18	利尻	台風	2台	9/18	石狩	台風	1台
9/18	利尻富士	台風	2台	9/18	上ノ国	台風	5ケース
9/18	留萌	台風	2台	9/18	広尾	台風	1台
9/18	小平	台風	2台	9/18	士別	台風	1台
9/18	増毛	台風	1台	10/26	利尻	不明人捜索	1台
9/18	苫前	台風	2台	11/11	留萌	暴風雨	2台
9/18	豊浦	台風	2台	12/26	増毛	暴風雪	1台
9/18	伊達	台風	1台				

合計 製品提供5ケース・フリーベンド21台

自治体と協働で 取り組む安全・安心な まちづくり

2006年、安全・安心なまちづくりを
目指し、北海道と「災害時における飲料の
供給等防災に関する協力協定」を締結し
ました。

また、この協定に基づき、電光掲示板
付き災害対応型自動販売機を活用した市
町村との取り組みを展開。2012年には
道内全179市町村との間に防災協定を
結び、安全・安心のネットワークを広げ
ることができました。災害時には電光掲
示板から災害情報を発信するほか、各自
治体の判断でフリーベンドを行います。なお、

平時時には、地域情報を流すなど自治体
の広報ツールとしても活用されています。
これらの活動を通じ、北海道に生産機能
を持ち、全道をカバーする物流網を活用
した災害時の飲料供給や、平時時の防災
意識向上にも取り組んでいます。

そのほか、北海道防災総合訓練をはじめ、
道内各地の防災訓練にも積極的に参加。
避難所への飲料水輸送訓練や、フリーベ
ンドの実演を行いました。

さらには、東日本大震災以降、津波に
対する防災意識の高まりを受け、釧路
市など沿岸部の市町村を中心に自動販売
機へ「海抜表示」の取り付けを展開して
います。また、自動販売機内部に災害警
報機能を組み込むことで、緊急時には警
報を音声でお知らせする取り組みを行っ



防災訓練にて災害対応型自動販売機によるフリーベンドの実演



災害救援物資の輸送訓練



「暮らしの火の用心協力隊」証の交付式



自動販売機の海抜表示

地域の防災パートナー 北海道開発局との 幅広い協働

2006年、当社は活力ある地域づくり
を目指して北海道開発局と「協働事業による
包括協定」を締結。これに基づき、北海道開
発局と各自治体、そして当社の連携によって、
全道各地の道の駅にある電光掲示板付き災
害対応型自動販売機で情報を発信する「お
しらせ道ねつ」の運用を始めました。現在
約130台を設置しており、道路情報や地
域情報の発信のほか、緊急時には災害や交
通に関する情報をいち早く掲示。遠隔操作
により自動販売機内の飲料が無償で提供さ
れるフリーベンド(※)の機能も備えています。
2017年には、大空町・当別町にそれぞれ
新たな道の駅がオープンし、開業に合わせ
「おしらせ道ねつ」の運用が始まりました。
さらに、道路利用者への安全・安心の提



おしらせ道ねつと点灯式(当別町)

供や利便性の向上、地域防災の意識向上や
緊急時の防災拠点機能などをより一層高め
ることを目的に、高規格道路のパーキングエ
リアや国道の防災ステーション、パーキングシ
ェルター、チェーンの着脱場などへも「おし
らせ道ねつ」の運用を広げ、地域住民や道
路利用者の安全・安心を拡充しています。
なお、上浦幌パーキングエリアなどでは、北
海道が推進する「イランカラフテ」キャンペ
ーンを応援するため、キャンペーンロゴマーク
のある自動販売機を設置しています。
また、2014年からは、全道10の開発
建設部と「道路異常の情報共有、及び道路
緊急ダイヤルの啓発活動に関する協定」を
締結。業務中の当社社員が道路の破損など
の異常を見つけた際には、速やかに通報す
るとともに、当社車両900台に道路緊急
ダイヤル「#9910」のステッカーを掲示し、
啓発に協力しています。

※フリーベンド/災害時に自動販売機内の飲料が
無償で提供される機能のこと



道路緊急ダイヤル「#9910」のステッカー



イランカラフテデザイン
自動販売機

VOICE



北海道総務部
危機対策局危機対策課
防災教育担当課長
三角 靖枝さん

企業と協働で実施する 防災への取り組み

北海道で暮らす私たちは豊かな
自然の恩恵を受けていますが、同時
に、恐ろしい自然災害を理解して正
しく備えることが必要です。

日ごろから家庭や学校、企業、行
政が情報や知恵を出し合い、地域全
体で防災について学び行動する機会
を増やしていくことを怠ってはいけ
ません。このため北海道では、さま
ざまな企業や団体などに参画いた
だいているネットワークにより、道
民の皆さまへ向けた防災教育の浸
透を目指して、普及啓発イベントな
どに取り組んでいます。

御社には、全道各地で実施される
地域の防災訓練やイベントに参加
いただくなど、毎年継続して協力を
いただいています。今後も良きパ
ートナーとして連携を深めながら、と
もに地域の防災に関する活動の輪
を広げていきたいと考えています。

世界共通の高品質管理

「さわやかな潤い」が提供する価値ある時間のために一。
 コカ・コーラシステムでは、原材料の調達から生産、
 輸送、販売のすべてのプロセスで、
 世界共通のマネジメントシステムを運用しています。



世界共通のマネジメントシステム

「KORE」によるオペレーション管理

日本コカ・コーラ(株)と当社が属するボトラー会社や関連会社で構成されるコカ・コーラシステムでは、KORE (コア・Coca-Cola Operating Requirements) と呼ばれる独自のマネジメントシステムによるオペレーション管理を世界共通で行っています。一般にもづくりは、原材

料の調達から製造を経て物流、そして販売というプロセスを進みながらお客さまが製品を手にするようになります。それらには常に複雑で多様な条件や状況に左右されるリスクがありますが、KOREではすべての過程で、「品質」や「食品安全」、「環境」及び「労働安全衛生」に関する独自の基準が網羅的に定められています。それは国際規格ISOや各種法令の要求事項を満たしながら、さらに厳しい基準を自らに課しているものです。

「KORE」の構造

KOREには、「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」という4つの要素があり、それぞれには、「方針」「基準」「規格」「要求事項」「作業手順/参照文書」という5つの階層があります。「方針」から「基準」「規格」「要求事項」までは目的を定めたもので、「作業手順/参照文書」にはその達成のための方法が示されています。

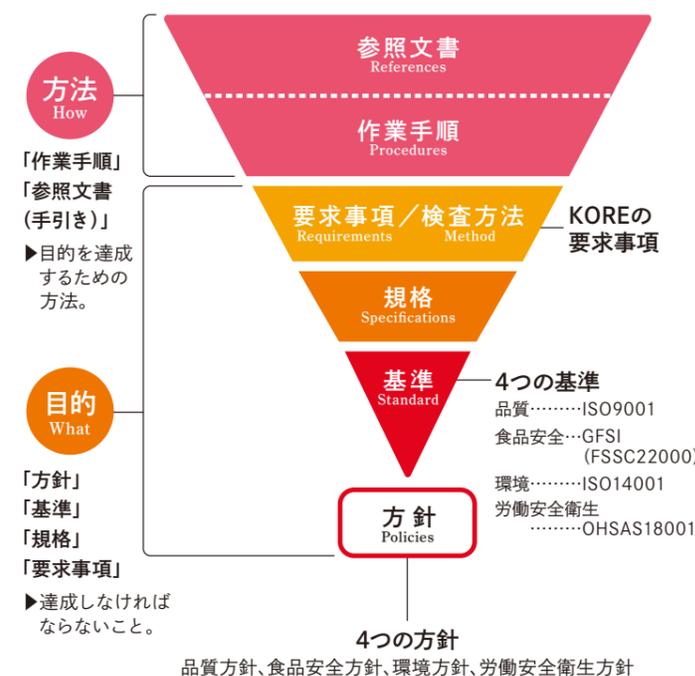
KORE

Coca-Cola (KO*) Operating Requirements

コカ・コーラ オペレーティング リクワイアメント

※「KO」は、ニューヨーク証券取引所に上場しているザ コカ・コーラ カンパニーの略称です。
 ※「KORE」にはISO9001 (品質マネジメントシステム)、FSSC22000 (食品安全マネジメントシステム)、ISO14001 (環境マネジメントシステム)、OHSAS18001 (労働安全衛生マネジメントシステム) の基準が含まれています。

「KORE」の構造



国際規格の取得と鮮度管理

ISO9001 認証取得

2007年より、製造・販売・管理部門で品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」を取得し、2017年12月に2015年版への移行をしました。ISOと事業活動を連動させ、業務改善や品質及びサービス向上に取り組んでいます。

FSSC22000 認証取得

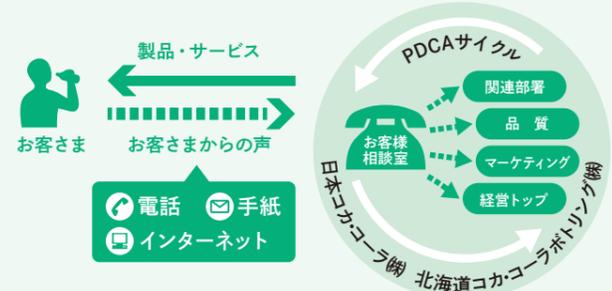
札幌工場では、食品安全マネジメントシステムの国際規格であるFSSC22000の認証を2010年に取得しました。FSSC (Food Safety System Certification) は、食品製造業界のあらゆる組織に向けた、食品安全システムの規格です。複数の検査士による味覚検査をはじめ、設備機器の徹底したメンテナンスや、水質の安全性の維持と保証に高いレベルで努めています。

賞味期限切れの防止

製品がお客さまの手元に届くまでの鮮度の管理目標や製品取扱管理基準を設け、賞味期限が切れたり容器不良を起こさない仕組みを整えています。とりわけ自動販売機における賞味期限については、商品を充填する営業担当者が、適正本数の充填とチェック活動を徹底しています。また工場倉庫からの出荷から自動販売機に充填されるまでの管理や在庫の適正化、加温販売における温度管理などのガイドラインを設けて、全製品の安全で高品質な提供に努めています。

お客さまと向き合う体制

お客さまから寄せられるご指摘やご提案、お問い合わせなどは、すべて当社の事業の貴重な糧となります。お客さまへ対応する体制については、顧客満足に関する国際規格ISO10002に適合していることを確認して、2007年8月に適合を宣言しました。



製品に関するお問い合わせは
 日本コカ・コーラ(株)お客様相談室
0120-308509 (土日祝日を除く 9:30~17:00)
 URL <http://www.cocacola.co.jp>

お客さま対応の基本理念

当社は、高品質な製品を通してお客さまに「さわやかさと潤い」をお届けする企業です。そのためにお客さまとのコミュニケーションを大切に、常に安心できる製品とサービスを提供するとともに、お客さまからの声を事業に活かしながら、地域の皆さまから「信頼され、認められる企業」を目指しています。

お客さま対応の基本方針

- 1) お客さまの声を真摯に受け止め、公正、公平で透明性の高い対応を心掛けるとともに、迅速、適切に行動します。
- 2) お客さまとの大切なコミュニケーションの機会ととらえ、積極的な情報提供を行います。
- 3) 社会に対する責任を自覚し、関連する法的、倫理的な要求事項や自主的基準を遵守します。
- 4) お客さま満足の向上を目指して、常に最善を尽くします。

工場見学のご案内

札幌工場(札幌市清田区清田1条1丁目)では随時工場見学を受け付けています。徹底した衛生管理と先進の製造システムが稼働する製造ラインや巨大な立体自動倉庫がご覧いただけます(入場無料)。終了後には試飲をお楽しみください。

- 見学できる日時 月~金曜 (10:00~11:30、13:30~16:30)
 ※祝日も見学可能です(一部休みあり)。
 ※7~9月は土曜も見学可能です。
 ※製造ラインが稼働していない場合は、映像でのご案内となります。
- 所要時間 約60分
 ※ご要望に応じて調整できます。
- ご案内人数 2~140名



お申し込み あらかじめお申し込みが必要です。見学希望日の前日までに電話または専用WEBサイトからご予約ください。

011-888-2100

(受付時間/月~金曜 9:00~17:30)

※定員になり次第、受付終了となりますのでご了承ください。

<https://factory.hokkaido.cbc.co.jp>

03 地域連携

私たちは、たくさんの仲間と力を合わせながら、新しい明日をつくっていきます。地域とのふれあいを大切に、連携の輪をもっと大きく広げていきたいと思えます。

地域の一員として、地域と北海道を考える。



地域の大学生と協働した雪かき

地域の企業・団体との連携

「キッズタウン」への想い

「キッズタウン」は、職業体験を通じて仕事の楽しさや社会の仕組みを学んでもらい、まちの成り立ちを伝えることや、地元への郷土愛を育んでもらうことを目的に、自治体や教育委員会、地元企業などの協力のもと、道内5都市(釧路市、函館市、苫小牧市、帯広市、旭川市)で毎年開催している親子イベントです。子どもたちは保護者が見守る中で、仮想のまち「キッズタウン」で消防士や薬剤師、銀行員、パティシエなどいろいろな職業につき、さまざまな体験をします。体験時間に応じて、まことに名前のついた疑似通貨が給料として支払われ、キッズタウン内の店で実際に買い物をすることが出来ます。



「キッズタウン」の様子

2010年にスタートしたキッズタウンはこれまで累計1万5千人ほどの子どもたちが参加してくれました。2017年も5都市で合計約2,400人の子どもたちが参加し、さまざまな職業に一生懸命に取り組んでいました。

「キッズタウン」協力企業・団体(2017年)

- 釧路市 / 一般社団法人 釧路地方自動車整備振興会、一般社団法人 釧路薬剤師会、オムレツカフェレストラン ALOHA、(株)釧路厚生社、(株)TB北海道 釧路支店、(株)トップオブ釧路 山花温泉リフレ、(株)マルエイ六峰社、釧路菓子商組合、釧路ガス(株)、釧路市消防本部、釧路市水産加工振興センター 釧路市水産加工業協同組合、釧路信用金庫、釧路方面釧路警察署、コーチャンフォーグループ (株)リアリアル、(株)根電工業協同組合、和商市場駄菓子コーナー、立ち喰いそばマキ、鶏雑グループ pan de pan、日本郵便(株) 釧路中央郵便局、釧路西郵便局、丸善木材(株)、(有)うちや美容室、一般社団法人 釧路青年会議所、(有)カーサポートイン
- 函館市 / (株)あさひや、北島製パン(株)、キューソー(株)、サン・リフレ函館 レストラン ROKAN、総合警備保障(株)、函館南丸ズ、(株)ニイ学館、(株)ニューメディア NC V函館センター、函館朝市協同組合連合会、函館技能士会、函館空港ビルディング(株)、学校法人 野文学園函館歯科衛生士専門学校、一般社団法人 北海道歯科衛生士会函館支部、函館市環境部函館の街をきれいにする市民運動協議会、函館市消防本部、函館市食生活改善協議会、函館市青果物地方卸売市場活性化対策委員会、(株)函館新聞社、函館税務署、函館市財務部、一般社団法人 函館薬剤師会、函館山ロープウェイ(株)FMいるか、ハコレドコム(株)、(株)北海道銀行、北海道函館方面函館西警察署、(株)ルネサンス、公益社団法人 函館市シルバー人材センター、はこだてキッズショップ(キッズタウン実行委員会)
- 苫小牧市 / (有)らんどベーカーリー、胆振地区造園技能士会、王子サーモン(株)、(株)あいファーム、(株)コスモグラフィック、(株)金剛剛、総合警備保障(株) 苫小牧支店、苫小牧海上保安署、苫小牧ガス(株)、苫小牧警察署、苫小牧市消防本部、苫小牧市立病院、苫小牧信用金庫、苫小牧地区自動車整備協同組合、苫小牧民報社、ふくし大作社!!!2017実行委員会 社会福祉協議会、北海道電力(株)、公益財団法人 北海道作業療法士会、ヤマト運輸(株) 千歳支店、(株)住まいのウチイキ、(株)北海道銀行、苫小牧市民薬局(株)、苫小牧市役所環境衛生部ゼロゴミ推進室、rinnacchi
- 帯広市 / (有)りとかち、足寄動物化石博物館、(株)エイムカンパニー、北海道警察釧路方面帯広警察署、帯広市事務局、とかち広域消防局、帯広消防署、帯広市図書館、帯広信用金庫、一般社団法人 帯広地方自動車整備振興会、日本郵政(株) 帯広郵便局、西帯広郵便局、(株)オカモト、(株)清海商店、帯広美容協会、十勝バス(株)、(株)十勝毎日新聞社、(株)藤森商会、北海道看護協会十勝支部、(株)北海道銀行、(株)北海道新聞社、帯広支店、北海道電力(株) 帯広支店、とかち薬剤師会、ヤマト運輸(株) 道東支店、六花亭製菓(株)、(株)帯広シティーケール、Guild(ギルド)、(株)みかんせい、(株)福原
- 旭川市 / 旭川印章業組合、(株)三建設事務所、東芝ホクト電子(株)、旭川市子育て支援部母子保健課、(株)豊屋総本店、一般社団法人 旭川薬剤師会、(株)日本旅行北海道、トータルエステティックサロン Bochoumer(ボシュメル)、(株)北海道銀行、旭川理容美容専門学校、旭川中央旭川東警察署、旭川市消防本部、旭川駅立売会(株)、(株)サキエ芸、旭川ガス(株)、花本建設(株)、(株)カノモ企業、(株)至誠まごころ館、(株)山城教材社、(株)北海道録音センター、(株)カムラ、一般社団法人 旭川地方自動車整備振興会、(株)道北アークス、国立大学法人 旭川医科大学、一般財団法人 道北地域旭川地場産業振興センター、北海道教育大学旭川校、旭川大学短期大学部

旭山動物園との連携

2008年、当社は旭川市と「魅力あるまちづくりに関する基本協定」を結び、園内に休憩スペース「やすらぎの森」を寄贈しました。さらにその隣に地元企業や学校、市民が協働で農園を開き、2010年からは「つながる輪『いのち』」と名づけた、動物の排泄物と微生物の働きを活かした循環型農業の環境教育プログラムを行っています。5月の農園開きは恒例行事で、種まきと田植えに加えて、2013年から整備を進めてきたビニールハウス「ホテルが生息できる環境づくり」の一環で、ホテルの幼虫放流も行っています。

また、動物園を通して子どもたちの未来を応援するために、新施設の建設や大規模な修繕、新しい動物の購入などの資金となる「あさひやまもつと夢基金」を支援する自動販売機を市内に設置して、売上の一部を同基金に毎年寄付しています。

VOICE



札幌市円山動物園 園長 加藤 修さん

生きものたちを通して環境への気づきと学びを

御社には、円山動物園が特に力をいれている環境教育活動やお客様さまへのおもてなしの取り組みに対して、さまざまなご支援をいただいています。

その中心が、円山動物園の動物たちのかわいイラストが大人気の「ミニッツメイドQoo どうぶつデザイン」によるご支援です。これによって、子どもたちを科学へいざなう、「サイエンズO」や、生物多様性保全のための「これ以上増やさないで、北海道の外来生物展」などの企画が実現しました。

これからの動物園で重要なのは、保全と教育です。今後も、御社の温かくそして力強いご支援をいただきながら、未来を担う子どもたちの教育、育成に力を注いでまいります。身近なパートナーとしてご支援をよろしくお願いいたします。

円山動物園との連携

当社は札幌市と、「札幌市円山動物園を舞台とした環境協働事業に関する協定」や、「さつぽろまちづくりパートナー協定」に基づき、2008年、環境への意識を高めてもらう園内休憩スペース「ネイチャーカフェ・アース」を開設し、運営しています。2010年には「猛禽類野生復帰施設」の建設費用の一部を寄付。2013年からは、環境問題や食育へのきっかけになってほしいと、同園で飼育されている絶滅危惧種4種(ホッキョクグマ、マレーバク、オオワシ、カバ)をイラストで描いた「ミニッツメイドQoo どうぶつデザイン」を地域限定で発売し、売上の一部を毎年同園に寄付しています。

雪かきボランティア

本社のある札幌市清田区近隣では、当社社員と地域の大学生が連携し、高齢者や体が不自由な方のお宅やゴミステーション、消火栓まわりを除雪するボランティアを2009年から続けており、2017年からは札幌市豊平区の西岡地区でも実施しています。また、異業種の企業と連携して倶知安町の豪雪地を訪ね、高齢独居世帯の雪かきも実施しています。

社員による清掃活動

札幌のシンボル大通公園をきれいにしようと、2013年、当社社員がボランティアで清掃活動を始めました。いまでは多くの企業や団体が参加するものとなり、2015年には札幌市から「札幌市民憲章実践者表彰」を受賞しました。

さらに本社・札幌工場のある清田区とは2010年に、まちの美化に向けた「アダプト・プログラム」(*)を締結。本社前の市道の清掃を実施しています。

※アダプト・プログラムとは養子縁組のこと。ここでは道路を養子に見立てて各団体が定期的に清掃活動を行うこと。



企業連携の清掃活動



ネイチャーカフェ・アース



「ミニッツメイドQoo どうぶつデザイン」



体験型環境教育プログラム「つながる輪『いのち』」



「YOSAKOIソーラン祭り」での販売の様子



第69回 さっぽろ雪まつり 応援デザイン缶 第27回 YOSAKOIソーラン祭り 応援デザイン缶

道内各地には、地域の風土や営みが生み出す個性豊かなイベントやお祭りがあふれます。北海道全域で事業を展開する当社は、こうした催しをさまざまな形で応援しています。「さっぽろ雪まつり」や「YOSAKOIソーラン祭り」では、応援デザイン缶を毎年発売してお祭りをPR。また売上の一部を組織委員会に寄付しています。「YOSAKOIソーラン祭り」では、本社と同じ区にある札幌国際大学と「ココロラ札幌国際大学」と協働し、お祭りに毎年チーム参加しています。また冬の北海道を彩り、ツーリストに絶大な人気を誇るのが、各地の冬まつりで、「旭川冬まつり」や「おびひろ氷まつり」などをサポートしています。そのほかにも「旭川食べマルシェ」や「函館グルメサカス」、地元清田では「清田ふれあい区民まつり」や「清田マルシェ」など、積極的な関わりを大切にしています。



ファイターズイベントデー

当社ではスポーツを通じて北海道を盛り上げるために、北海道のスポーツシーンをリードするプロスポーツチーム、「北海道日本ハムファイターズ」、「北海道コンサドーレ札幌」、「レバンガ北海道」を応援しています。また、当社のマスコット「Ooo」と球団マスコット「B・B」が道内の幼稚園や保育園を訪問し、食べることの大切さを学ぶ「ちゃんと食べよう体操」を通じた、親子への食育活動に2007年より取り組んでいます。ちなみに、「Ooo」は2010年に札幌市から食育特別大使として任命されています。

全道でお祭りをサポート

地域活性化のお手伝い

スポーツは地域のエンジン



「ココロラ札幌国際大学」YOSAKOIソーランチーム



さっぽろ雪まつり会場

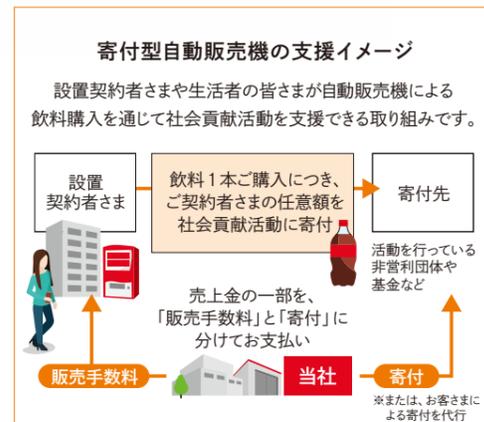


ピンクリボン活動支援自動販売機寄付金贈呈式

社会貢献活動の支援 寄付型自動販売機の広がり

当社では自動販売機の設置契約者さまや生活者の皆さまが、自動販売機による飲料購入を通じて、社会貢献活動を支援できる寄付型自動販売機の取り組みを展開しています。

2010年から始まったのが、ピンクリボン活動支援自動販売機の設置。これはご購入いただいた飲料の売上の一部を、公益財団法人北海道対がん協会へ寄付するもので、現在全道に約150台が展開されています。寄付金の一部を活用して2016年からは「ココロラ工場見学×無料乳がん検診バスツアー」を開催しています。そのほか、盲導犬の育成に取り組む北海道盲導犬協会を



クリスマスのにぎわいをお手伝い

真っ赤なサンタクロースのイメージは、1930年代に米国で製作されたココロラの広告によってつくられたと言われています。当社では1968年より毎年、クリスマスの時期に全道の福祉施設などへ製品のプレゼントをしており、2017年で50年目となりました。また、札幌市電「ココロラクリスマス電車」を2000年より期間限定で運行して、にぎわいづくりをお手伝いしています。

全道のクリスマスイベントを応援

サンタの格好で楽しくウオーキングし、参加費の一部で病氣と闘う子どもたちへクリスマスプレゼントを贈るイベント「サンタラン」の全道各地での運営に協力。2017年、札幌では約1500人の参加者とともにチャリティー活動を盛り上げました。また、日本唯一のサンタランド広尾町とタイアップ。



札幌サンタファン

サンタランドのイルミネーション点灯式への参加や、サンタからクリスマスカードが届く「サンタメール」事業にも協力しています。

応援する「盲導犬応援自動販売機」、若い女性研究者を応援する「若手・女性研究者奨励金寄付型自動販売機」など、寄付型自動販売機を活用した支援は着実に広がっています。また、病氣と闘う子どもたちに自然体験を楽しんでもらう活動を応援する「そらぶちキッズキャンプ応援自動販売機」を展開する当社は、2017年同施設より感謝状をいただきました。当社はこのほかにも、さまざまな寄付型自動販売機を展開し、地域の課題解決のお手伝いをしています。



そらぶちキッズキャンプ 応援自動販売機 若手・女性研究者 奨励金寄付型 自動販売機 盲導犬応援 自動販売機 ピンクリボン 活動支援自動販売機

COLUMN

ココロラとオリンピックの歴史

ココロラ社がオリンピックのスポーツ企業となったのは、1928年夏のアムステルダム大会に始まり、それ以来、今日まで継続してオリンピックを応援しています。当社では1972年の札幌冬季オリンピックにて大会を挟むおよそ1か月の間、全道の営業所から延べ700人を応援部隊として動員。選手村やプレスルーム、競技会場にて飲料約2万ケースを提供し、全社総力を結集して大会を応援しました。

さらに、2020年の東京オリンピックに向けた取り組みとしては、「JOCオリンピック支援自動販売機」を展開。オリンピックを目指すアスリートを応援しています。



1972年 札幌冬季オリンピックの様子 (札幌市公文書館所蔵)

よりよい職場づくり

社員一人ひとりがやりがいを持って安心して働ける職場づくりのために。企業マネジメントの質にはじまり、自然災害など幅広いリスクへの備えや、働きやすさの制度設計まで、総合的な取り組みが重ねられています。



働きやすい職場づくり

多様な人材育成

働きながらより高度な専門能力を取得していくことを目的に、2011年から「グローバル人材育成制度」が始まりました。「MBAコース」「語学コース」「海外研修コース」があります。また「女性のための活躍支援ミーティング」も行われています。さらに通信教育費の一部を会社で負担することで、自己啓発や各種資格の取得を奨励しています。

ワーク・ライフ・バランス

当社では社員の仕事と家庭の適正なバランスを図るために、全体的な残業削減活動はもちろん、育児・介護休業法に基づいた育児・介護休業制度をはじめ、妊娠休暇、子どもの看護休業、そして所定労働時間を最大3時間短縮する育児短時間勤務制度を整えています。さらに、所定外労働時間の免除や育児のための時差出勤制度もあり、社員の家族生活や地域との関わりを側面からサポートしています。



マネジメント体制

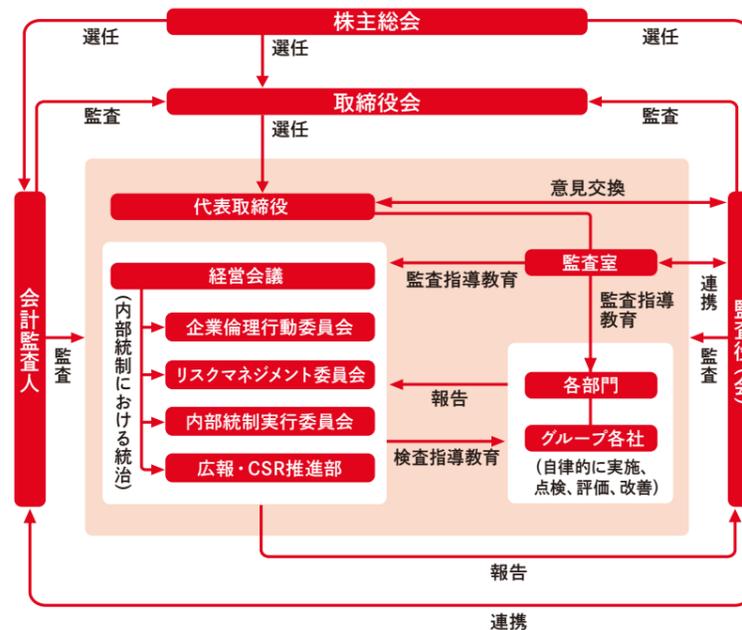
コーポレート・ガバナンス

すべての業務において、お客さま、株主、従業員、取引先、地域の皆さまなど、さまざまなステークホルダー（利害関係者）とメリットを持続的に分かち合える関係づくりを重視しています。的確な経営の意志決定とそれに基づく業務遂行、適正な監督・監査を可能にする体制の充実が進められています。

内部統制システム

内部統制システムの強化と、社会的信頼の獲得を目的とした「北海道コカコーラグループコンプライアンス管理基本規程」を、また、金融商品取引法に対応するための「内部統制の基本方針書」を策定し、財務報告に関わる内部統制の適切な整備・運用及び、その評価・報告を継続して行うよう努めています。

コーポレート・ガバナンス及び内部統制の模式図



リスクに備えて

危機管理体制の強化

当社では「リスクマネジメント方針」を定めており、天災や製品事故等が発生した際は、リスクマネジメント委員会が主導して、ただちに部門横断的に対応する体制を構築しています。また、コカコーラシステムがリスクマネジメント及び危機管理プログラムとして定めているIMCR（Incident Management & Crisis Resolution）を採用。全社員に浸透するよう、IMCRTレーニングを年に2回、開催しています。

避難訓練

全事業所で、毎年避難訓練を実施しており、火災発生に伴う初期消火活動と消防への通報、避難指示のアナウンスなどの確認を行っています。また、本社では消防署の立ち会いのもと、グループ会社を含めた総合防災訓練を行っており、大規模地震を想定して、自衛消防隊の指揮・命令系統、被害者救助の救援体制などを確認しています。

営業車両には防災グッズ

災害の発生時には、社員一人ひとりの安否をいち早く確認するために、携帯電話への一斉配信による安否確認を行います。また、災害時に不足が予測される物品を各事業所に備蓄し、社員の安全を確保。配送トラックや営業車両などにも非常食や折りたたみ式スコップ、防寒用アルミシート、携帯トイレ、携帯電話用充電器などの防災用品を配備しています。

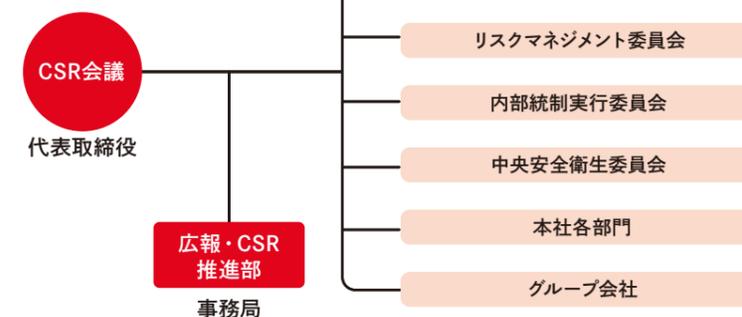
北海道コカ・コーラグループ危機管理体制



CSR会議

企業が自らの事業を通して社会の要請に応えていくことを目指すCSR経営の実践のために、本社各部門・グループ会社で構成するCSR会議を定期的開催しています。分析と課題の抽出に取り組みながら、組織的なCSR活動を展開していきます。

CSR会議



VOICE



幸楽輸送株式会社 十勝事業部輸送課長 有働 直樹

さらなる防災対策を現場の発想と手法から

当社では車両の運行状況が常時確認できるGPS搭載デジタルタコグラフ・ドライブレコーダーを全車に完備して、特に天候状況や当日の道路状況などを細かく確認することで、的確な運行指示による安全運行を心掛けています。今シーズンの大雪災害による高速道路や国道の通行止めなどに対しても、危険な路上待機を避けるために現在地を確認しながら、「水・トイレ」がある安全な場所の確認と燃料補給・食料の確保、そして待機場所への移動を運行管理者から早めに指示することで、待機環境を整えることができました。一方で通行止め時間が予想をはるかに超えた車両もあり、その車両は車上備蓄の非常食での対応となりました。この経験を踏まえ、非常食の増量など車上備蓄の見直しも必要であることを認識しました。今後のさらなる防災対策強化に役立ててまいります。

会社の概要

商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 (コカ・コーラ指定会社) HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役社長 佐々木 康行
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL (011) 888-2001 (代表)
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	430名(グループ1,302名)
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造及び販売
事業所	本社、札幌工場、営業拠点(16)
決算期日	毎年12月31日(年1回)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部、札幌証券取引所

グループ会社の概要

- 北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社
清涼飲料水及び飲料水用容器の製造
各種自動販売機の修理、設置及び撤去
- 北海道ベンディング株式会社
自動販売機による飲料、食品等の販売
- 幸楽輸送株式会社
コカ・コーラ社製品の工場・営業拠点間の輸送、
一般貨物輸送、倉庫業
- 北海道サービス株式会社
一般事務処理業務、事務機器等のリース、清掃業、
損害保険代理業

企業集団の財産及び損益の状況の推移

(単位:百万円)

区分	第54期 (2015年)	第55期 (2016年)	第56期 (2017年)
売上高	58,094	56,620	56,061
経常利益	1,030	2,441	2,431
親会社株主に帰属する 当期純利益	516	1,587	1,884



企業プロフィール

北海道コカ・コーラボトリングの事業範囲は、北海道全域。
地域の健全な発展がなければ、私たちの事業も成り立ちません。
道民の皆さまと支え合いながら、社会的責任を果たしていきます。

経営理念

私たちは、
知的に活性化された
豊かで創発的な社会に
貢献します。

経営指針

- 私たちは、
1. 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
 2. 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに
地域社会に貢献します。
 3. 変革にチャレンジし、活力ある創発的な会社をつくりまします。

社員行動規準

- ・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
- ・私たちは、生活者やパートナーとの
コミュニケーションを大切にします。
- ・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
- ・私たちは、時代の変化に適応し変革を起こし続けます。
- ・私たちは、「環境に、地域に優しい」
企業活動を実践します。
- ・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。



事業所ネットワーク
札幌本社を中心に全道16カ所の事業所を展開。
変わらぬ品質を確実にお届けしています。

コカ・コーラシステムについて
日本コカ・コーラ株式会社から原液の供給を受けて
製品の製造と販売を行うのが、当社のようなボトラー
です。ボトラーは全国に5社。それぞれの地域に
根ざしたきめ細かなサービスを展開しています。

北海道コカ・コーラボトリングCSRレポート2018 第三者意見



日本赤十字北海道看護大学 看護薬理学領域教授
災害対策教育センター長
薬学博士
根本 昌宏

北海道医療大学薬学部薬学研究所薬理学専攻博士課程修了。日本赤十字北海道看護大学災害対策教育センター長。北海道のオホーツクフィールドを活用して、厳冬期の避難所の展開や暴風雪時の車内対応の演習などを行い、その検証と開発に取り組んでいる。

北海道コカ・コーラグループが掲げる「つなぐ」「きずな」という言葉。7年前に発生した東日本大震災で数多くの人の心に響き、今も息づく言葉である。CSR報告書を拝見して思うことは、全道を網羅し、多様な人脈を持つ北海道コカ・コーラグループだからこそできる「つむぐ」という作業を、多角的なCSR活動により実現している事実である。そして様々な活動を通してそこにはひとつの幹がある。それは水を中心に据えたいのちの育みであろう。今を生きる人への水、次代を担う子どもたちへの水、さらにこれから生まれくるいのちへの水。その思いを、一つひとつの活動からはっきりと読み解くことができる。道内各地の防災事業でご一緒させていただくと、それらが日常のことだけでなく、非常時にも通ずることを実感する。実際、災害時に困難と不安な避難生活を送られている人々へ向けられた数多くの支援が、どれだけ大きな安らぎを与えたことか。文明が進み、技術が進化し、何事も便利な世の中になるにつれ、自己完結型の生活が難しくなっているように思う。特に北海道は長く厳しい冬がある。「停電」「暴風雪」「一酸化炭素」。道民であれば冬期間に心のどこかで意識する言葉であろう。

安全に健やかに生きるためには最低限の知識と経験が必要となる。CSR報告書の中で特筆すべきは子どもたちへの実体験の提供であろう。教室では学ぶことのできない数多くの体験型アプローチが、現代っ子たちに生きる力を醸成する原動力となっているように思う。社員の皆さんの爽やかな笑顔はもちろん、時おり見せる真剣な眼差しが、子どもたちの心に響き、それが次に活かされ、ひいては次代の社会を切り拓いていくことにつながる。CSR活動の重要な点はそれが一方向、すなわち社会に与えるだけではないところにある。活動から得られる学び、気づきそして出会いが、北海道コカ・コーラグループの発展に寄与していることは疑う余地がない。地域と融合することで、時代の流れを踏まえた変革を生じ、それが類まれなる企業スタイルを創り出しているのではないだろうか。北海道は総人口の減少と超高齢化の扉が開かれようとしている。30年以内の巨大地震発生想定からも目を背けてはならない。これからどのような時を歩むのかが問われている。150年となる北の大地に、健やかないのちを育み、これからも挑戦し続ける北海道コカ・コーラグループであることを願う。

[ご意見・ご感想]

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、本レポートをお読みいただいた皆さまのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

作成部署・連絡先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社
広報・CSR推進部
〒004-8588
札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2091

ホームページアドレス
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

【CSRレポート バックナンバー】

バックナンバーは下記の当社ホームページでご覧いただけます。
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/company/csrreport.html>



CSRレポート2015



CSRレポート2016



CSRレポート2017



北海道コカ・コーラボトリング株式会社

(コカ・コーラ指定会社)
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2091 (広報・CSR推進部)
COCA-COLA、コカ・コーラ、GEORGIA、ジョージア、I LOHAS、
いろはす、MINUTE MAID、ミニッツメイド、Qoo、クーは
The Coca-Cola Companyの商標です。

2018年5月発行 / 次回は2019年4月の発行予定です。

